

Imaging Team

掲載内容

営業情報

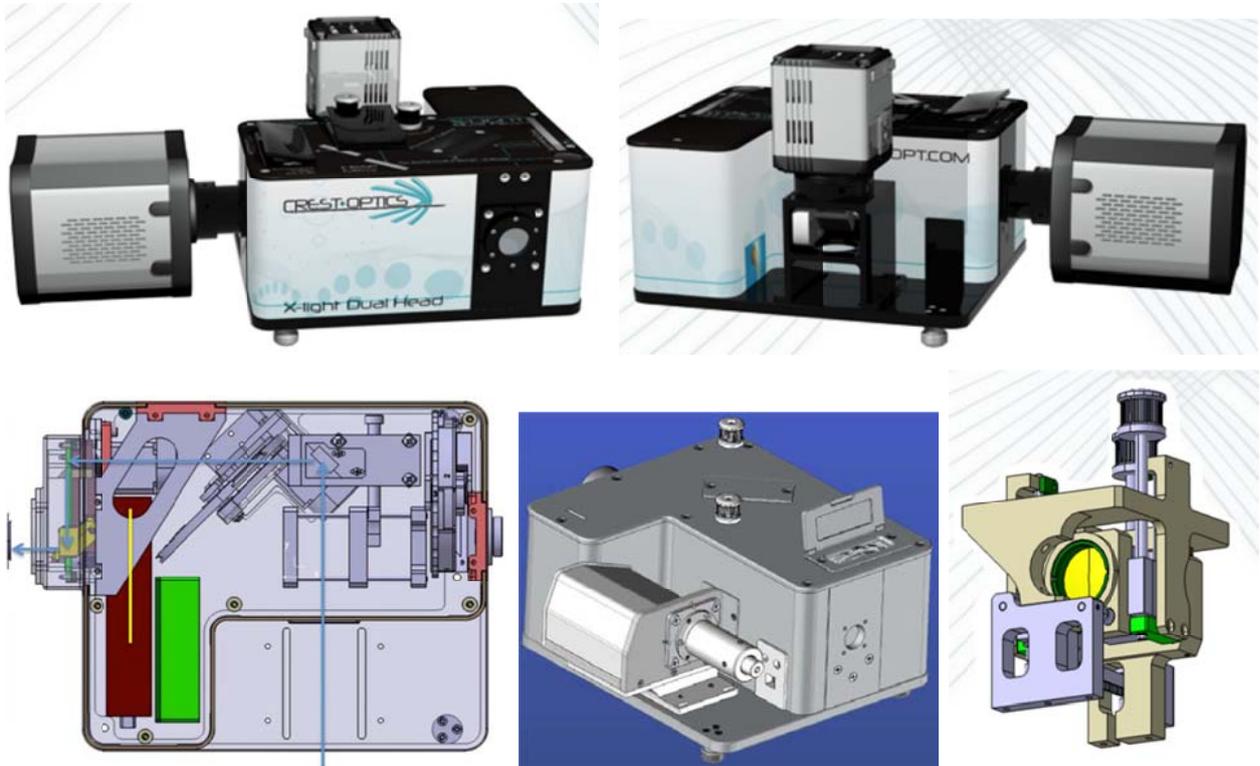
- 共焦点スキャナユニット X-Light に新しいラインナップが加わりました
- Rapid Automated Modular Microscope (RAMM) のご紹介

技術・サポート情報

- WEB サイトの情報をさらに充実させました
- MetaMorph Ver7.8.1 における ZDC を使った多点タイムラプスのバグ情報
- 浜松ホトニクス社製 Flash4.0 の Twin Camera 制御につきまして

共焦点スキャナユニット X-Light がさらにパワーアップ

ユーザ様に高くご評価をいただいております共焦点スキャナユニット X-Light に、新しく光刺激対応ベースユニット X-Light PRO、2台のカメラが接続可能な X-Light Dual Head の2機種がラインナップに加わり、さらに X-FRAP 光刺激ユニット、電動8穴フィルターホイールおよび、結像変倍レンズ(×2 ~ ×0.5)オプションが追加されました。詳細資料は、当社 WEB サイトよりダウンロードいただけます。



Rapid Automated Modular Microscope (RAMM) モジュール型顕微鏡のご紹介

RAMM は、実験用途やサンプル形状に合わせて自在に組み合わせ可能なモジュール型顕微鏡です。必要な対物レンズ、フィルターセット、励起光源を接続し既存の C マウントカメラを接続して画像取得が可能となります。オプションで販売している電動 XY ステージ、ピエゾ Z ユニット、透過光光源、CRISP 同焦点維持ユニットなどを付け足していくこともでき、ご予算に合わせた機能拡張が容易に行えます。付属のコントローラは MetaMorph ソフトウェアでサポートされているので、RAMM 自体をボックスで覆い、暗室不要なデータ取得・解析装置として組み上げることも可能です。



MDJ UIC チームサポート WEB サイトについて

今まで配信していた情報を整理し、体系的にさらにわかりやすくまた、ご必要な情報を引き出しやすいようにページを作り変えました。

http://www.nihonmdc.com/pages/UIC/MetaImaging_main.html

Meta Imaging Series

metamorph.japan@moldev.com

クリックで詳細ページに移動します

メールでのお問い合わせ

new!
Rapid Automated Modular Microscope (RAMM) モジュール型顕微鏡

new!
X-Light共焦点スキャナヘッド

new!
MDJ-BF-LED-KIT 明視野用LED光源キット

new!
高輝度蛍光用白色光源(SOLAシリーズ)

new!
顕微鏡用高速電動ステージシステム

new!
Super Resolution システム

ソフトウェア

- MetaMprph, MMPOCH
- MetaFluor
- MVDOC
- MetaMorph NX
- PrizMage
- Priz Mage-X
- Photo Bleaching Correction

カメラ

- Andor
- 浜松ホトニクス
- Photometrics
- Princeton Instruments
- QImaging
- DOC-Cam

光源

- フィルターホイール
- シャッター
- 蛍光フィルター

インキュベータ

- 共焦点スキャナヘッド
- 除振台
- 同時観察光学ユニット
- 超解像システム
- 多機能モジュール型顕微鏡

マニュアル

- 動画マニュアル
- 取扱いメーカーリンク
- SalesNote

Zモータ

XYステージ

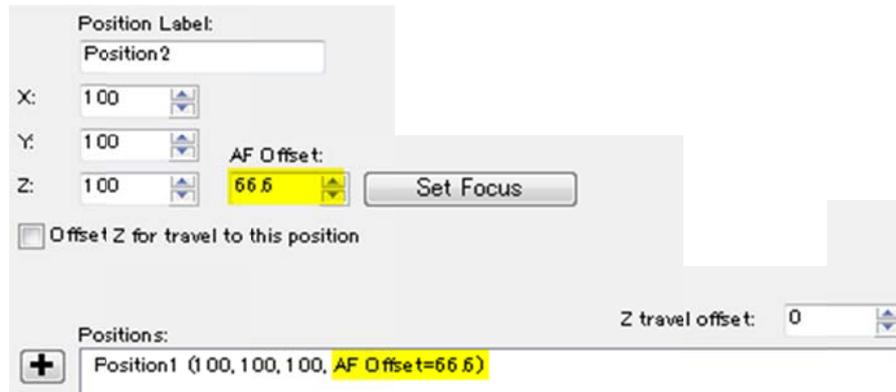
ピエゾ

MetaMorph Ver7.8.1 における ZDC を使った多点タイムラプスのバグ情報

MetaMorph Version7.8.1 において、オリンパス社製 ZDC オートフォーカスユニットと電動 XY ステージを併用した多点登録時において、バグが見つかりましたので報告いたします。

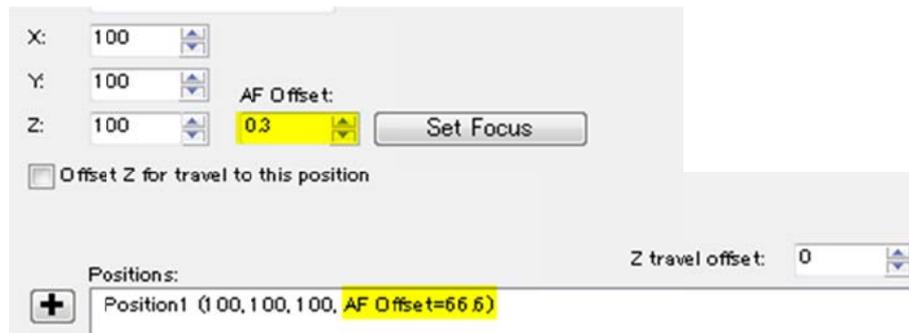
通常、XY ステージおよび Z モーターで登録位置を決め、ポジション登録をする際、Set Focus ボタンにて AF オフセット値を設定後、ポジション登録を行います。

例:



この場合であれば、Position1 のオフセット値は 66.6 になります。

しかし、ステージを動かさないまま、もう一度 Set Focus ボタンを押すと



AF オフセット値が 0 の近似値に変更されてしまいます。

また、この際は ZDC 側からは正常な動作音であるビーブ音 1 回が鳴る為、不具合に気付にくいのですが、このまま再度登録してしまうと、正常な位置でのオートフォーカスが出来なくなってしまいます。

ただし、もう一度 Set Focus を押すことで、再度正常値に戻ります

つまり、Set Focus ボタンを押すたびに 正→誤→正→誤・・・と繰り返す様です。

回避方法といたしまして

- ・Set Focus ボタンを押すのは 1 回だけとする
- ・間違っても 2 回押した場合、もう一度押す

となります。

このバグは既に開発側には報告済みで、近日リリース予定の Version7.8.2 で修正される予定です。

ご使用の皆様には大変ご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます。

浜松ホトニクス社製 Flash4.0 の Twin Camera 制御につきまして

最近のイメージング市場で高い評価を得ている sCMOS カメラですが、今回、浜松ホトニクス社製 ORCA Flash4.0 カメラにおいて、Metalmaging Software の機能の一つである、2つのカメラを同時に撮影制御する Twin Camera オプションにて制御できることが確認できました。

現在、ORCA Flash4.0 は USB3.0 と CameraLink の 2 種類のインターフェイスの組み合わせがございしますが、異なるインターフェイスでも制御可能です。

それぞれの組み合わせによるフレームレート(秒何枚撮影できるか)は以下の通りです。

USB3.0 x 2

●Live 速度

Optimize for synchronization モード: 9.1fps

Optimize for speed モード: 30fps

●Stream 撮影速度

Stream to RAM: Preview なし 30fps, あり 30fps

Stream to HDD: Preview なし 30fps, あり 21fps

※Preview を 10 フレーム毎にした場合 30fps

USB 3.0 と Camera Link

●Live 速度

Live Optimize for synchronization モード: 9.1fps

Live Optimize for speed モード:30fps

●Stream 撮影速度

Stream to RAM: Preview なし 30fps, あり 30fps

Stream to HDD: Preview なし 30fps, あり 21fps

※Preview を 10 フレーム毎にした場合 30fps

Camera Link x 2

●Live 速度

Live Optimize for synchronization モード: 9.1fps

Live Optimize for speed モード:100fps

※Auto Scale ON だと 30fps 程度になる

●Stream 撮影速度

Stream to RAM: Preview なし 100fps, あり 100fps

Stream to HDD: Preview なし 40fps, あり 23fps

※Preview を 10 フレーム毎にした場合 35fps

結果から申し上げますと、Camera Linkx2 が最速で撮影できますが、その場合、PC の PCIe スロットの空き状況次第では制御できないことがございますので、詳細は当社担当までご相談ください。なお、Stream 撮影には PC 側に十分なメモリが必須となりますので、ご注意ください